

9. 症 例

び慢性甲状腺疾患の症例を示す。

単純性甲状腺腫 simple goiter

原因がなく甲状腺腫大がみられる病態である。甲状腺機能は正常で、甲状腺自己抗体 (TgAb, TPOAb) は陰性である。思春期の女性に多くみられる。超音波では甲状腺両葉の軽度腫大と内部エコー均質で正常なエコーレベルを示す。

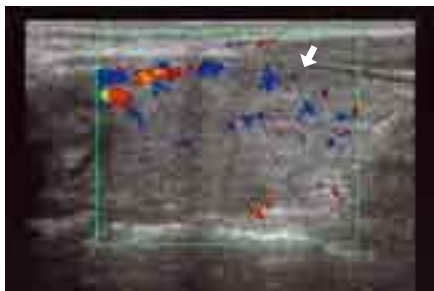
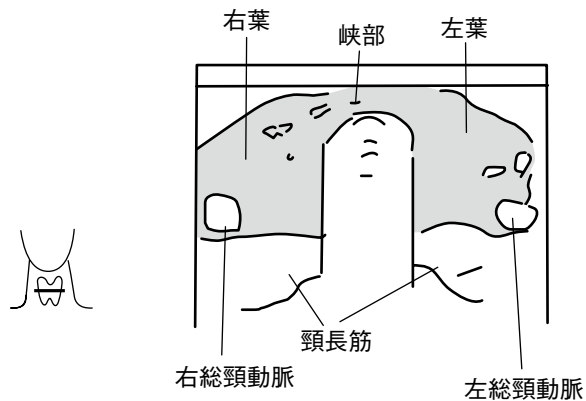
・単純性甲状腺腫 simple goiter

37歳、女性。

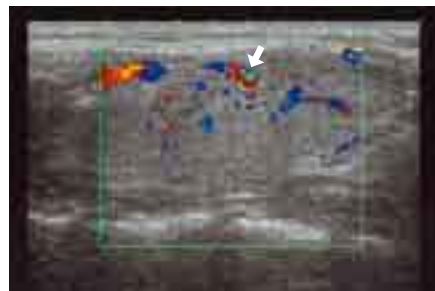
横断像では甲状腺峡部はやや厚みを増し、甲状腺両葉の軽度の腫大がみられる(図a)。図bは右葉のカラードプラ(矢印)、図cは左葉のカラードプラ(矢印)を示す。両葉とも血流増加はみられない。甲状腺が腫大する疾患にはバセドウ病や橋本病(慢性甲状腺炎)があるが、これらの疾患とは甲状腺の内部エコーやエコーレベルが異なるため、両者の鑑別は可能である。最終診断は血中ホルモン値や甲状腺抗体の所見から判定される。本例は単純性甲状腺腫であった。



図a 甲状腺の横断像



図b 右葉のカラードプラ



図c 左葉のカラードプラ

バセドウ病 Basedow's disease

バセドウ病は自己免疫疾患で、抗体の刺激により甲状腺はび漫性に腫大し甲状腺機能亢進症を示す。代表的症状はMerseburgの三徴といわれるもので、甲状腺腫大、眼球突出、心悸亢進であるが、頻脈、発汗過多、体重減少などを伴うことが多い。超音波では甲状腺両葉の腫大と、エコーレベルの低下(内部エコー不均質)および血管の拡張である。カラードブラでは著明な血流増加がみられ、燃えさかる炎のようにみえることから火焰状thyroid infernoと形容され、特徴的なエコーパターンを示す。

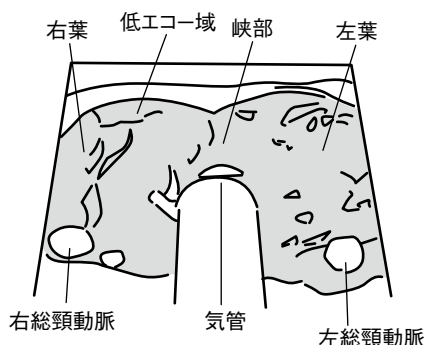
・バセドウ病 Basedow's disease

32歳，女性。

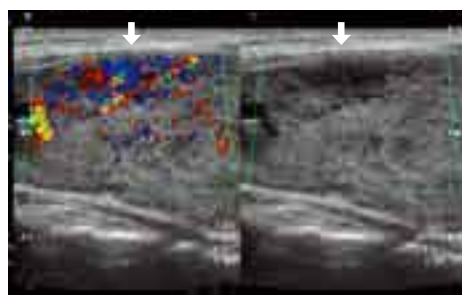
横断像では両葉と峡部の腫大および内部エコーも不均質な像を呈している(図a)。図bは峡部の縦断像であるが、著明な腫大が認められる(矢印)。図cは甲状腺右葉の上極側に低エコー域がみられたため(右矢印)、同部位をカラードブラでみたものである。Bモード像でみられた低エコー部分には豊富な血流信号がみられ火焰状thyroid infernoを呈している(左矢印)。カラードブラが有用である。



図a 甲状腺の横断像



図b 峡部の縦断像



左 カラードブラ 右 Bモード像
図c 右葉の横断像

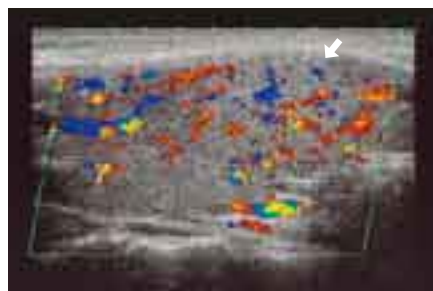
・バセドウ病 Basedow's disease

34歳，女性．

横断像では左・右の横径が30mm，峡部厚8mm大と両葉の腫大した甲状腺がみられる(図a矢印)．図bは右葉の縦断像におけるカラー Doppler を示す．腫大した右葉内に豊富な血流信号がみられる(矢印)．



図a 甲状腺の横断像

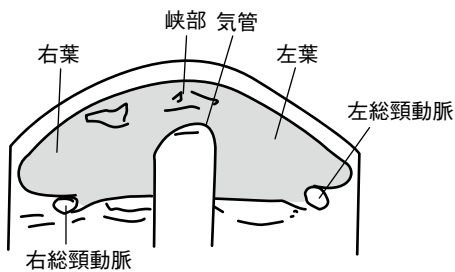


図b 右葉のカラー Doppler

・バセドウ病 Basedow's disease

23歳，女性．

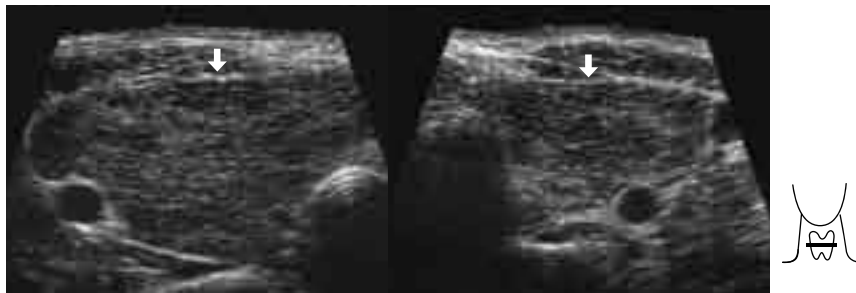
ウォーターバックを用いたアークスキャン像である．著明に腫大した甲状腺の内部エコーは低エコー像を示している．この方式で走査すると腫大した甲状腺の全体像の把握ができ便利であるが，腫瘤性病変などの小病変における評価は困難である．近年ではこの方式による検査は行われていない．



・バセドウ病 Basedow's disease

28歳，男性．

著明に腫大した甲状腺両葉を1画面に描出するのが困難であるため，左右別々に観察し合成したものである．両葉の内部エコーは低く粗雑な像を示している(図a矢印)．図bは左葉の縦断像である(矢印)．腫大した甲状腺の内部エコーは粗雑であるが辺縁は平滑である．本例は手術が施行された．図cに摘出標本を示す．このように腫大した左右甲状腺を一画面に描出するには音響カプラを用いコンベックス型探触子を用いると大きさの評価は可能であるが，画像が悪いといった欠点がある．



右 葉

左 葉

図a 甲状腺の横断像



図b 左葉の縦断像



図c 摘出標本

NOTE

バセドウ病の治療

超音波検査によるバセドウ病の所見は先に述べたが，バセドウ病は甲状腺の働きが活発になりすぎ甲状腺ホルモンが過剰につくられるようになることが病因である．したがってこの治療は，甲状腺ホルモンが過剰につくられないようにするもので，抗甲状腺剤の内服，手術による甲状腺の亜全摘術，それに放射性ヨードを内服するアイソトープ治療の3つの方法がある．治療の選択は病気の程度やライフスタイルにより方法が異なる．